

投資信託説明書 (交付目論見書)

使用開始日 2021.12.16

JASDAQオープン

追加型投信／国内／株式

※ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

当ファンドは2022年4月4日付けでファンド名称を「JASDAQオープン」から「JAPANスタンダードオープン」に変更予定です。

また、投資信託約款の変更(2022年4月4日に行われる東京証券取引所の市場区分見直しに伴う変更)の
手続きの実施を決定しました。

くわしくは、表紙裏面「追加的記載事項」をご確認ください。

商品分類			属性区分		
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域
追加型	国内	株式	株式 中小型株	年1回	日本

※商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)でご覧いただけます。

- 本書は、金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書です。
- ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。
- 本書には、約款の主な内容が含まれていますが、約款の全文は請求目論見書に掲載されています。
- ファンドの商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認します。
- ファンドの財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されています。
- 請求目論見書は、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。(請求目論見書をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようお願いいたします。)

この目論見書により行う「JASDAQオープン」の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2021年12月15日に関東財務局長に提出しており、2021年12月16日に効力が生じております。

委託会社:三菱UFJ国際投信株式会社

ファンドの運用の指図等を行います。

金融商品取引業者:関東財務局長(金商)第404号

設立年月日:1985年8月1日

資本金:20億円

運用投資信託財産の合計純資産総額:20兆836億円

(2021年9月30日現在)

ホームページアドレス

<https://www.am.mufg.jp/>

お客さま専用フリーダイヤル

0120-151034 (受付時間:営業日の9:00~17:00)

受託会社:三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンドの財産の保管・管理等を行います。

JASDAQオープンの東京証券取引所の市場区分の見直しに伴う 重大な約款変更に関するお知らせ

東京証券取引所では2022年4月に市場区分が「プライム市場」、「スタンダード市場」、「グロース市場」に再編される予定です。これに伴い、当ファンドの主要投資対象市場である「JASDAQ市場」の廃止と、ベンチマークである「JASDAQ INDEX」の算出終了が予定されています。弊社としては、市場の流動性等も考慮のうえ、当ファンドの主要投資対象市場を「スタンダード市場」に変更し運用を継続することが受益者のみなさまのニーズにお応えするものと判断しました。そこで、2022年4月4日付けでファンドの主要投資対象を「東京証券取引所スタンダード市場上場株式」に、ベンチマークを「東証スタンダード市場指数」に各々変更するため、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき2021年12月16日現在の受益者のみなさま(2021年12月15日までに、購入のお申込みをされた方が対象となります。)に主要投資対象、ベンチマークを変更することについての異議申立の手続きを2021年12月16日から2022年1月26日まで行います。

当該期間中に主要投資対象、ベンチマークを変更することについて異議を述べた受益者のみなさまの受益権の合計口数が2021年12月16日現在のファンドの受益権総口数の2分の1を超えない場合、ファンドは主要投資対象、ベンチマークを各々変更し、商品性の変更に伴いファンド名称を「JAPANスタンダードオープン」に変更いたします。また、否決された場合、投資信託約款に定められた運用方針に沿った運用の継続が困難となるため、ファンドは2022年3月4日に繰上償還を行う予定です。その場合、2021年12月16日現在の受益者のみなさまにその旨を記載した書面を交付いたします。

主要投資対象、ベンチマークを変更することについての可否につきましては、2022年1月27日に委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/>)にてお知らせいたします。

主要投資対象、ベンチマークを変更することについて可決された場合は、ファンドにおいて、以下の約款変更を行います。

- ・ファンド名称
- ・主要投資対象
- ・ベンチマーク

主要投資対象、ベンチマークについては、P3の「ファンドの目的・特色」をご確認ください。

ファンドの購入に際しては、本記載を十分にご認識の上、お申込み下さいますようお願い申し上げます。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

JASDAQ上場株式を主要投資対象とし、中長期的に成長が期待できると判断する銘柄を個別に選定することにより、JASDAQ上場銘柄の指標であるJASDAQ INDEXを上回る投資成果をめざします。

ファンドの特色

特色1

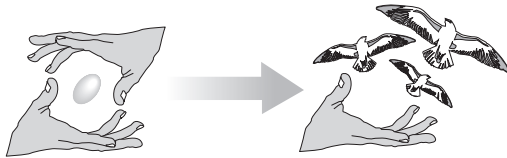
主としてJASDAQ上場株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

特色2

株式への投資は、企業訪問等による調査・分析を通じて、中長期的に成長が期待できると判断する銘柄を個別に選定する方法により行います。なお、組入れにあたりましては、個別銘柄の株価水準や流動性を考慮します。

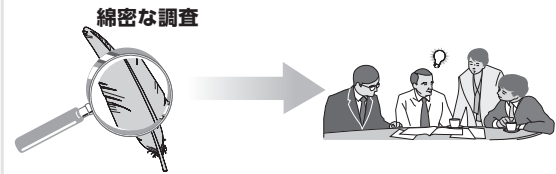
ファンドの主な銘柄選定基準

I. 成長性の高い銘柄に注目



主としてJASDAQ上場株式の中から、中長期的に高い成長が期待できる銘柄に注目します。

II. 綿密な企業調査により厳選



株価に影響を与える「企業情報」は、常に公平に株価に反映するとは限りません。綿密な企業調査により、将来的価値が株価に反映されていない銘柄の発掘に努めます。

上記は銘柄選定の視点を示したものであり、実際にファンドで投資する銘柄が常に上記の条件を満たすわけではありません。また、こうした企業が必ず利益成長を達成し、株価が上昇するわけではなく、環境によっては業績が悪化し、株価が下落することがある点にご留意ください。

☞ 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)でご覧いただけます。

特色3

運用にあたりましては、「JASDAQ INDEX^(注1)」をベンチマーク^(注2)として同指数を上回る投資成果をめざしたアクティブ運用を行います。^(注3)

(注1) JASDAQ INDEXとは、JASDAQ上場の内国株券全銘柄を対象として時価総額加重平均方式に基づき算出される株価指数です。

(注2) ベンチマークとは、ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標です。

(注3) ファンドは、主としてJASDAQ上場株式の中から成長性に富む銘柄を選定してアクティブ運用を行うものであり、基準価額が同指数と連動することをめざして運用を行うものではありません。

なお、運用にあたり株式市場の流動性やファンドの資産規模等の状況に応じて、ファンドの現金比率を高めることがあります。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

東京証券取引所スタンダード市場上場株式を主要投資対象とし、中長期的に成長が期待できると判断する銘柄を個別に選定することにより、東京証券取引所スタンダード市場上場銘柄の指標である東証スタンダード市場指数を上回る投資成果をめざします。

ファンドの特色

特色

1

主として東京証券取引所スタンダード市場上場株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

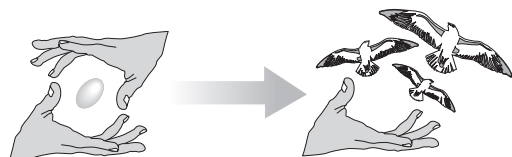
特色

2

株式への投資は、企業訪問等による調査・分析を通じて、中長期的に成長が期待できると判断する銘柄を個別に選定する方法により行います。なお、組入れにあたりましては、個別銘柄の株価水準や流動性を考慮します。

ファンドの主な銘柄選定基準

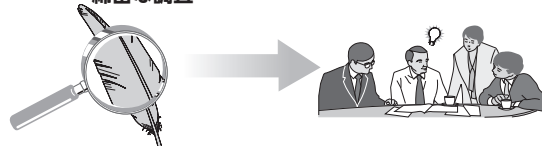
I. 成長性の高い銘柄に注目



主として東京証券取引所スタンダード市場上場株式の中から、中長期的に高い成長が期待できる銘柄に注目します。

II. 綿密な企業調査により厳選

綿密な調査



株価に影響を与える「企業情報」は、常に公平に株価に反映するとは限りません。綿密な企業調査により、将来的価値が株価に反映されていない銘柄の発掘に努めます。

上記は銘柄選定の視点を示したものであり、実際にファンドで投資する銘柄が常に上記の条件を満たすわけではありません。また、こうした企業が必ず利益成長を達成し、株価が上昇するわけではなく、環境によっては業績が悪化し、株価が下落することがある点にご留意ください。

☞ 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)でご覧いただけます。



運用にあたりましては、「東証スタンダード市場指数^(注1)」をベンチマーク^(注2)として同指数を上回る投資成果をめざしたアクティブ運用を行います。^(注3)

(注1) 東証スタンダード市場指数とは、東京証券取引所のスタンダード市場上場の内国普通株式全銘柄を対象として浮動株ベースの時価総額加重方式で算出される株価指数です。東証スタンダード市場指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、東証スタンダード市場指数の算出もしくは公表の方法の変更、東証スタンダード市場指数の算出もしくは公表の停止または東証スタンダード市場指数の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

(注2) ベンチマークとは、ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標です。

(注3) ファンドは、主として東京証券取引所スタンダード市場上場株式の中から成長性に富む銘柄を選定してアクティブ運用を行うものであり、基準価額が同指数と連動することをめざして運用を行うものではありません。

なお、運用にあたり株式市場の流動性やファンドの資産規模等の状況に応じて、ファンドの現金比率を高めることがあります。

■ 主な投資制限

- ・株式への投資割合に制限を設けません。
- ・同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定します。

■ 分配方針

- ・年1回の決算時(9月16日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。



投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けませんが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

流動性 リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

ファンドは、中小型株を主要投資対象としているため、大型株中心に投資する場合に比べ、価格変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

■その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

■リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

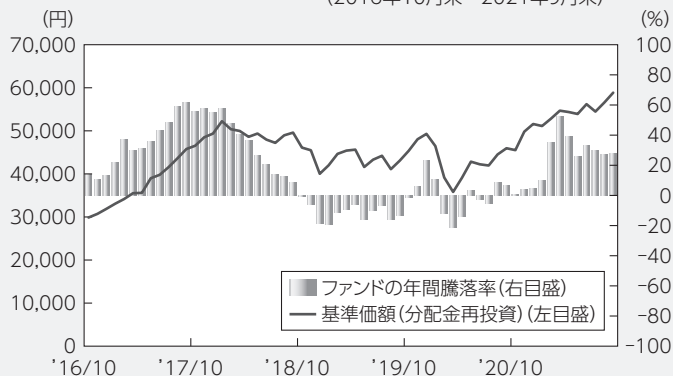
また、定期的開催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

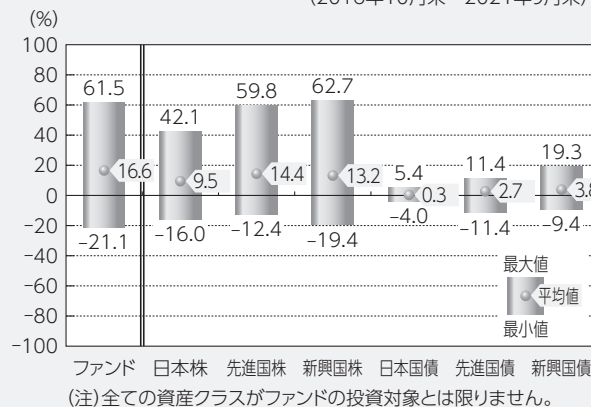
● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

(2016年10月末～2021年9月末)



● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2016年10月末～2021年9月末)



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により東京証券取引所が算出する株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI(国債)とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)	FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っていません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

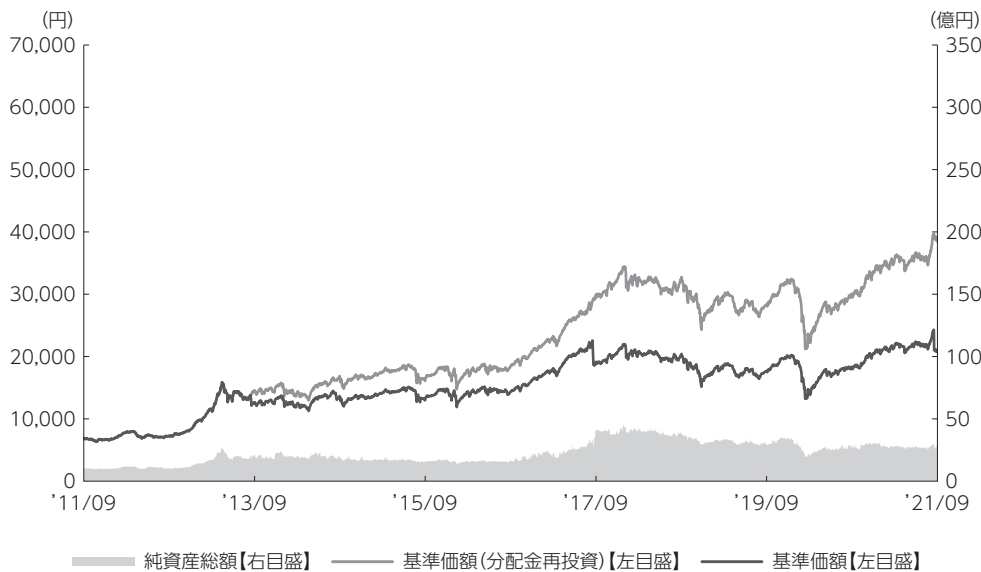
(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。



運用実績

2021年9月30日現在

■基準価額・純資産の推移 2011年9月30日～2021年9月30日



- 基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	20,693円
純資産総額	26.6億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2021年9月	2,800円
2020年9月	400円
2019年9月	0円
2018年9月	450円
2017年9月	4,100円
2016年9月	500円
設定来累計	16,520円

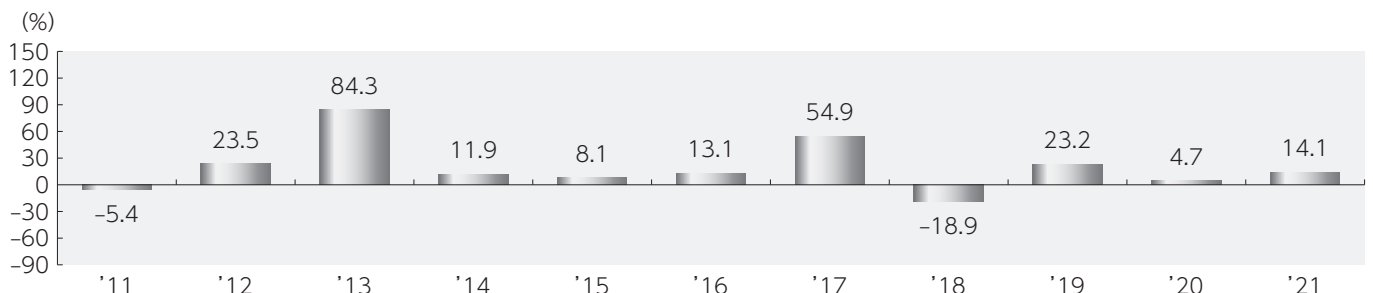
●分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

組入上位業種	比率	組入上位銘柄	業種	比率
1 情報・通信業	16.9%	1 日本マクドナルドホールディングス	小売業	6.2%
2 小売業	13.2%	2 東映アニメーション	情報・通信業	4.8%
3 機械	12.9%	3 ナカニシ	精密機器	4.7%
4 サービス業	12.6%	4 沖縄セルラー電話	情報・通信業	4.2%
5 電気機器	12.5%	5 フルヤ金属	その他製品	4.1%
6 精密機器	5.9%	6 NITTOKU	機械	4.1%
7 その他製品	5.6%	7 アンビスホールディングス	サービス業	4.1%
8 化学	4.1%	8 ウエストホールディングス	建設業	3.9%
9 建設業	3.9%	9 セプテーニ・ホールディングス	サービス業	3.9%
10 証券、商品先物取引業	2.9%	10 ワークマン	小売業	3.7%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの

■年間収益率の推移



- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2021年は年初から9月30日までの収益率を表示

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。



手続・手数料等

■お申込みメモ

 購入時	購入単位	販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
	購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
	購入代金	販売会社が指定する期日までにお支払いください。

 換金時	換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。) 販売会社にご確認ください。
	換金価額	換金申込受付日の基準価額
	換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。

 申込について	申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
	購入の申込期間	2021年12月16日から2022年12月15日まで* ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新される予定です。
	換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
	購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。

 その他	信託期間	2024年9月13日まで*(1994年10月14日設定)
	繰上償還	以下の場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。 ・受益権の口数が10億口を下回るようになった場合 ・ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
	決算日	毎年9月16日(休業日の場合は翌営業日)
	収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
	信託金の限度額	500億円
	公告	原則として、電子公告の方法により行い、ホームページ(https://www.am.mufg.jp/)に掲載します。
	運用報告書	毎決算後および償還後に交付運用報告書が作成され、販売会社を通じて知れている受益者に交付されます。
	課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、「NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)」の適用対象です。 配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。

*東京証券取引所における市場再編に伴い、主要投資対象を「東京証券取引所スタンダード市場上場株式」に、ベンチマークを「東証スタンダード市場指数」に各々変更する手続きを行っています。異議申立の手続きが否決された場合は繰上償還を行うため、「購入の申込期間」は2022年3月3日まで、「信託期間」は2022年3月4日までとなる予定です。なお、否決された場合、ファンド名称の変更は行いません。

■ ファンドの費用・税金



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	支払先	購入時手数料	対価として提供する役務の内容
	販売会社	購入価額に対して、 <u>上限2.2%(税抜 2%)</u> (販売会社が定めます)	ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)			
信託財産留保額	ありません。		

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 <u>年率1.452%(税抜 年率1.32%)</u> をかけた額		
	1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (保有日数 / 365)		
	※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。 各支払先への配分(税抜)は、次の通りです。		
	支払先	配分(税抜)	対価として提供する役務の内容
委託会社	0.62%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等	
販売会社	0.6%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等	
受託会社	0.1%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等	
※上記各支払先への配分には、別途消費税等相当額がかかります。			
その他の費用・手数料	以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。 <ul style="list-style-type: none"> ・監査法人に支払われるファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。		

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。



税金

税金は以下の表に記載の時期に適用されます。この表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※上記は2021年9月末現在のものです。

※[NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)]をご利用の場合

毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。くわしくは、販売会社にお問合わせください。

※分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等に確認されることをお勧めします。



目論見書を読み解くガイド

<https://www.am.mufg.jp/service/faqpoint/index.html>